

1. 地区の概況

図1 地区の位置

*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成

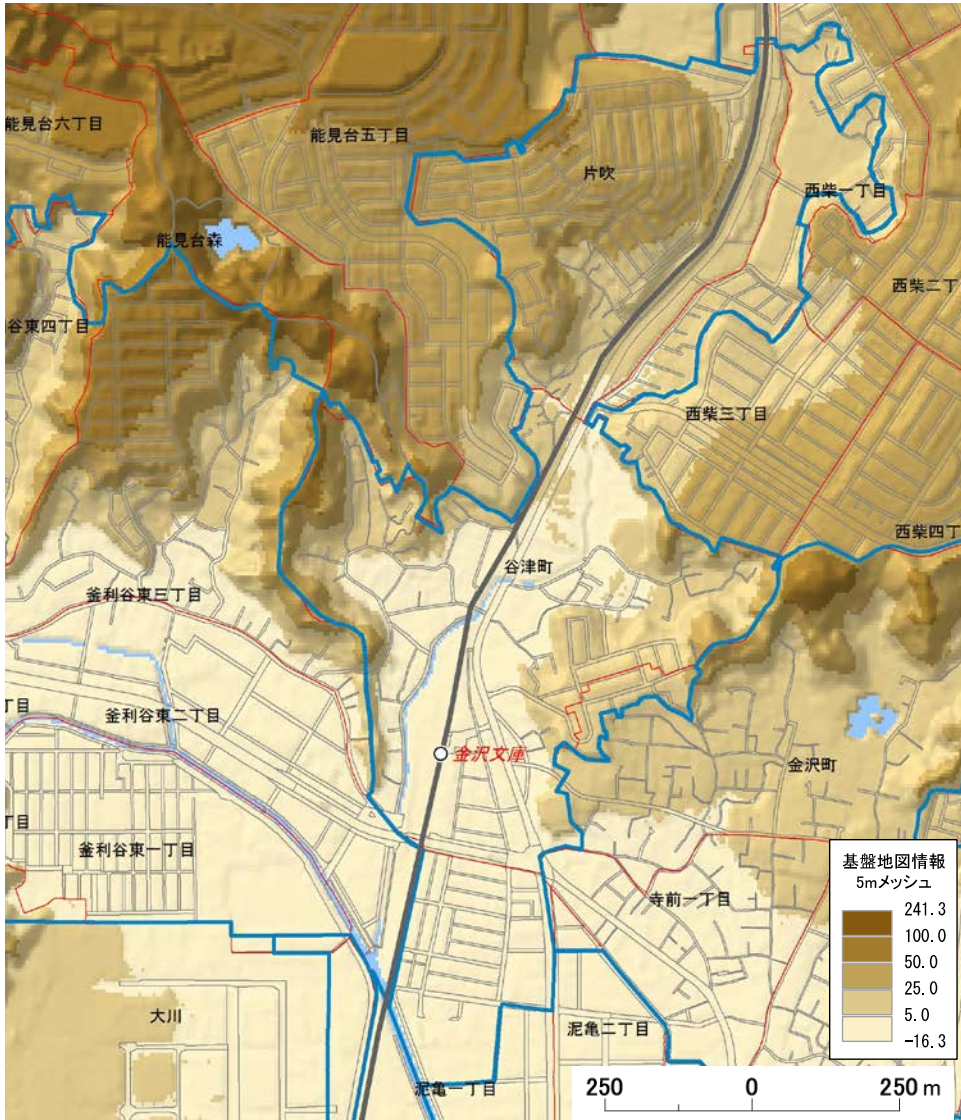


表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	平成20	平成25	平成30	平成20 ~25年	平成25 ~30年	平成25 年比率	平成30 年比率	平成30年 区平均	平成30年 市平均
人口 (人)	11,543	10,929	10,223	▲ 614	▲ 706	100.0	100.0	100.0	100.0
0~14歳人口 (人)	1,331	1,252	1,124	▲ 79	▲ 128	11.5	11.0	11.6	12.4
(内0~5歳) (人)	618	491	406	▲ 127	▲ 85	4.5	4.0	4.1	4.7
15~64歳人口 (人)	8,158	7,060	6,162	▲ 1,098	▲ 898	64.6	60.3	59.5	63.4
(内20~24歳) (人)	677	548	515	▲ 129	▲ 33	5.0	5.0	5.3	5.3
(内25~39歳) (人)	2,799	2,133	1,693	▲ 666	▲ 440	19.5	16.6	15.1	17.8
65歳以上人口 (人)	2,231	2,617	2,937	386	320	23.9	28.7	28.9	24.2
(内65~74歳) (人)	1,275	1,437	1,566	162	129	13.1	15.3	14.8	12.1
(内75歳以上) (人)	956	1,180	1,371	224	191	10.8	13.4	14.1	12.1
世帯数 (世帯)	5,155	5,116	4,965	▲ 39	▲ 151				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.24	2.14	2.06					2.29	2.10

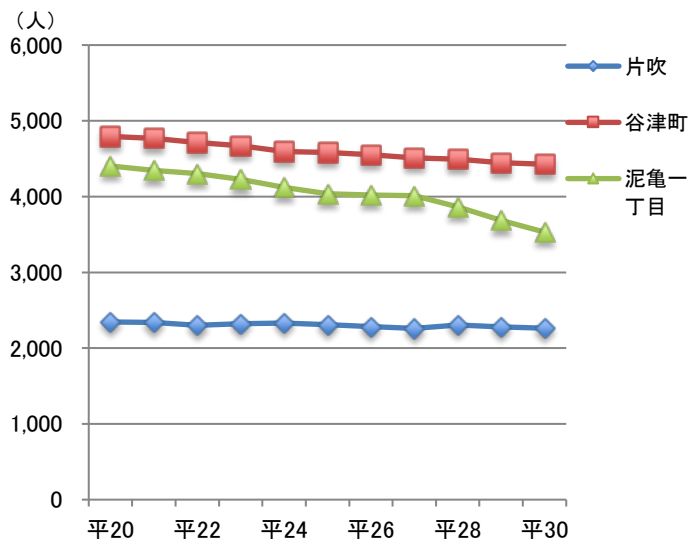
*「町別世帯と人口」、「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

*人口等の統計データは町丁目を単位に集計されたデータを活用しています。

*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2. 町丁別人口世帯の動向 * 「町丁別世帯と男女別人口」による。各年9月末現在

図2 町丁別人口の動向



金沢中部地区には、平成30年9月末現在約10,223人が暮らしています。世帯数は約4,965世帯、平均世帯規模は2.06人/世帯です。(表1参照)

平成25～30年の期間で見ると人口、世帯数とも減少が続いており、減少傾向は強くなっています。

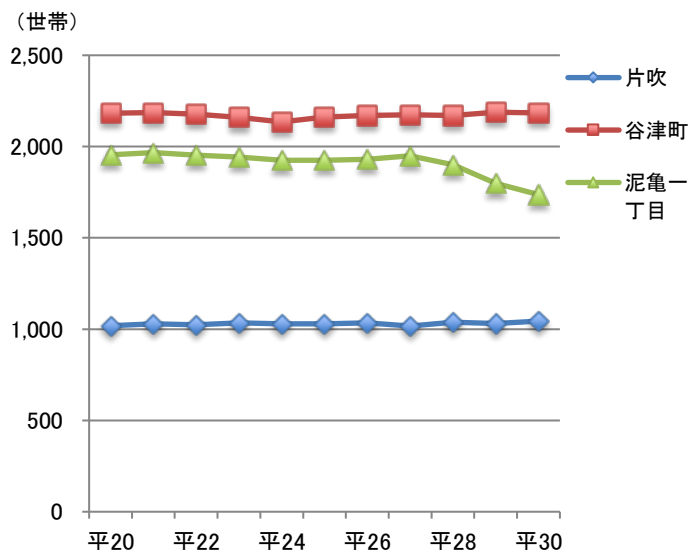
世帯規模は、縮小する傾向が続いており、平成30年の平均世帯規模は市の平均水準(2.10人/世帯)、金沢区の平均(2.29人/世帯)を下回っています。(表1参照)

平成30年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は、28.7%でほぼ区平均(28.9%)です。高齢化率は5年間で4.8%上昇しました。

0～14歳の人口(年少人口)の減少傾向が強まっており、比率も低下する傾向にあります。

15～64歳の人口(生産年齢人口)の減少が続いており、比率も低下しています。(表1参照)

図3 町丁別世帯数の動向



金沢中部地区には、3町丁が含まれています。

片吹は人口、世帯数ともに安定しています。

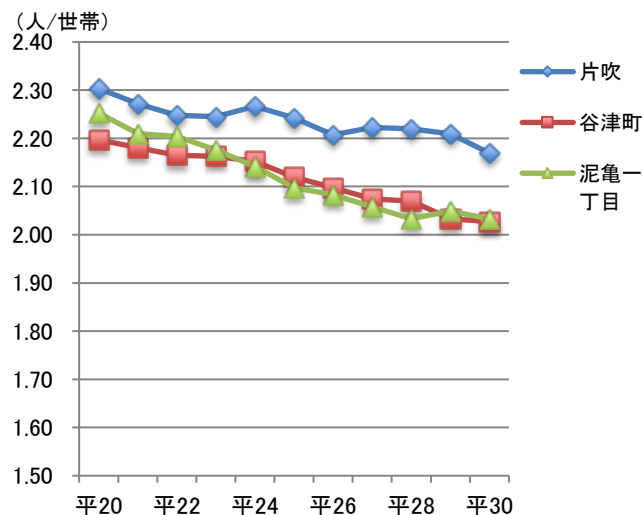
谷津町の人口は緩やかな減少、世帯数は安定しています。

泥亀一丁目は、平成28年以降、人口、世帯数ともに減少が続いています。

(図2,3参照)

世帯規模は、片吹で平成27以降やや大きくなる変化が見られましたが、平成28年以降は減少になりました。(図4参照)

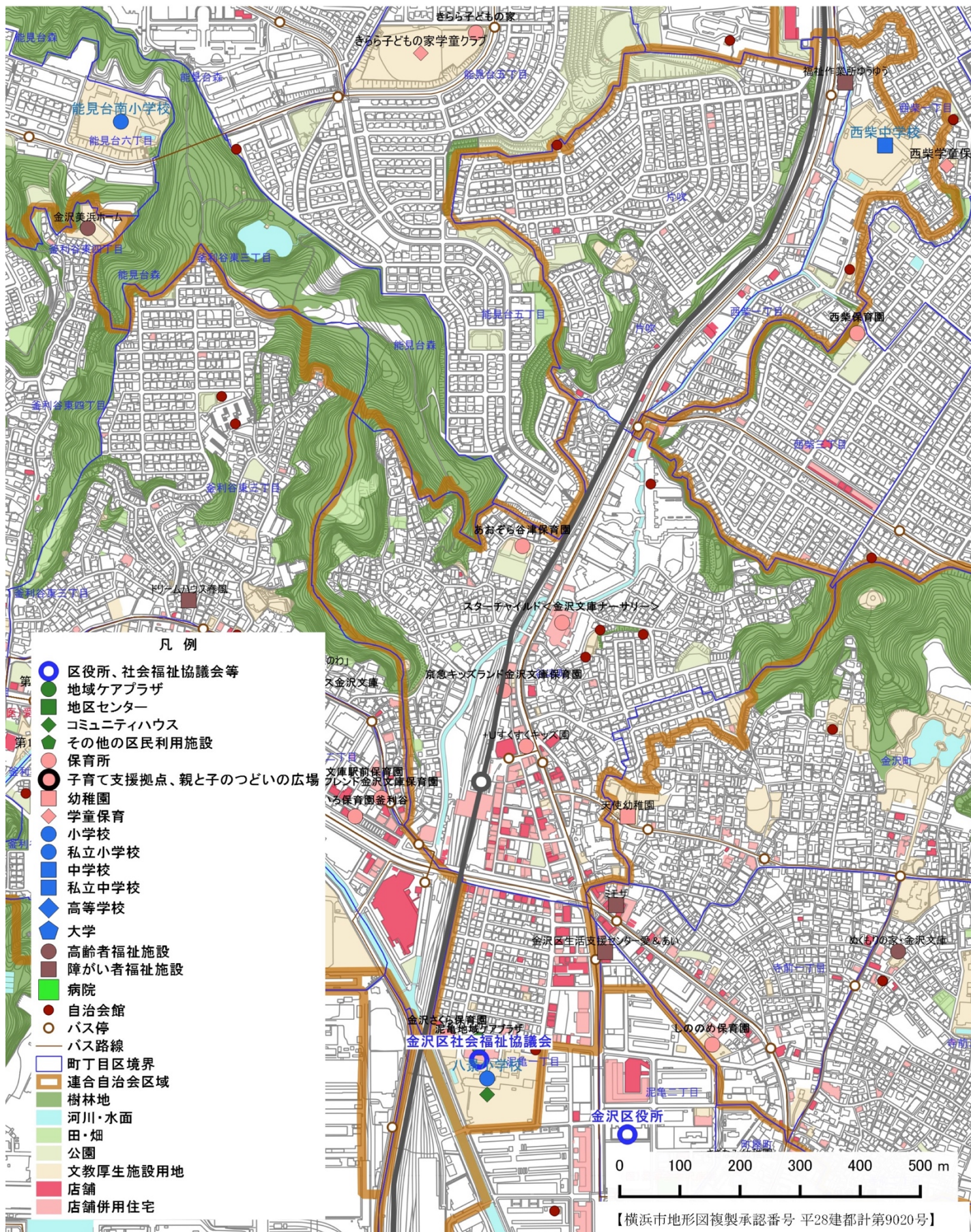
図4 町丁別平均世帯規模の動向



3. 地域の施設等の分布状況

図5 地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
 *施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



4. 年齢別人口と人口移動

*年齢別人口は「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在
 *移動人口は平成13～28年の人口移動集計結果による

図6 年齢5歳別の人口の変化

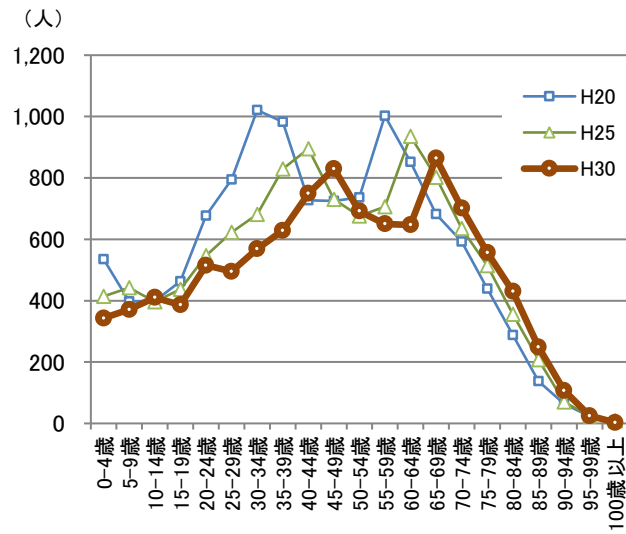


図7 年齢5歳別の人口の推移率

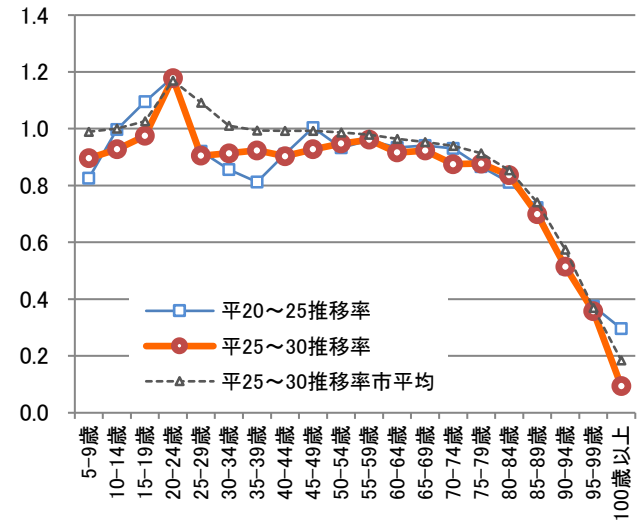
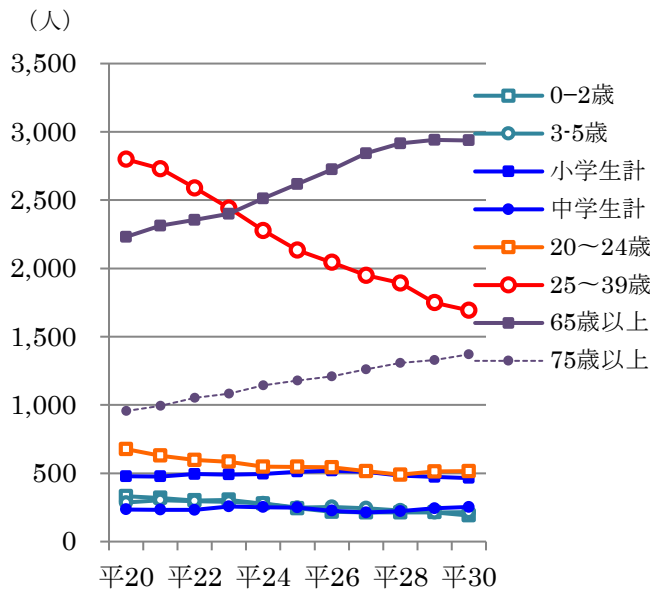


図8 年齢別人口の変化



*推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合

金沢中部地区は65～69歳と40歳代の人口が多くなっています。(図6参照)

人口移動は平成15～17年まで転入が活発でしたが、その後は安定しています。(図9参照)

全般的に転出が転入を上回る傾向が続いています。これまで多かった25～39歳の人口の減少傾向に徐々に弱くなってきていることがわかります。(図6, 9, 10参照)

図9 人口移動の動向

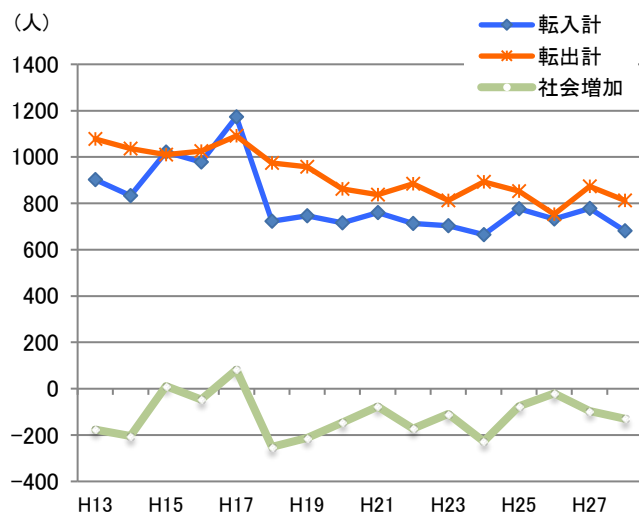
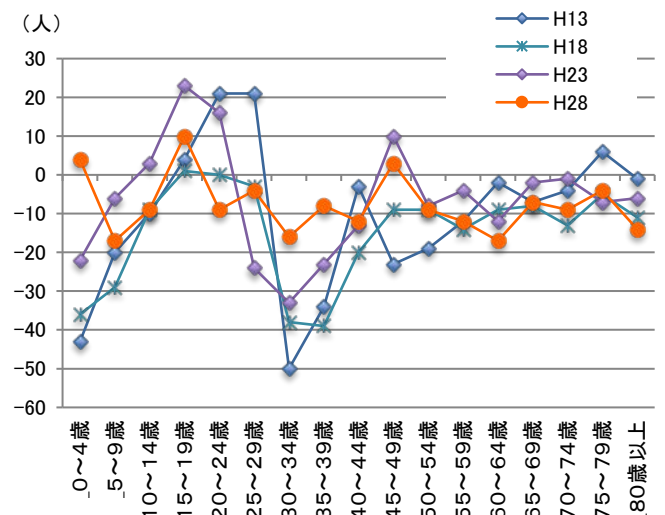


図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



5. 世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

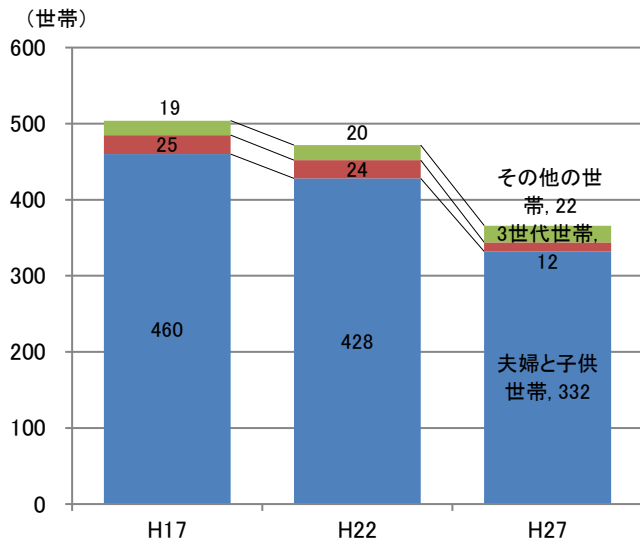


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

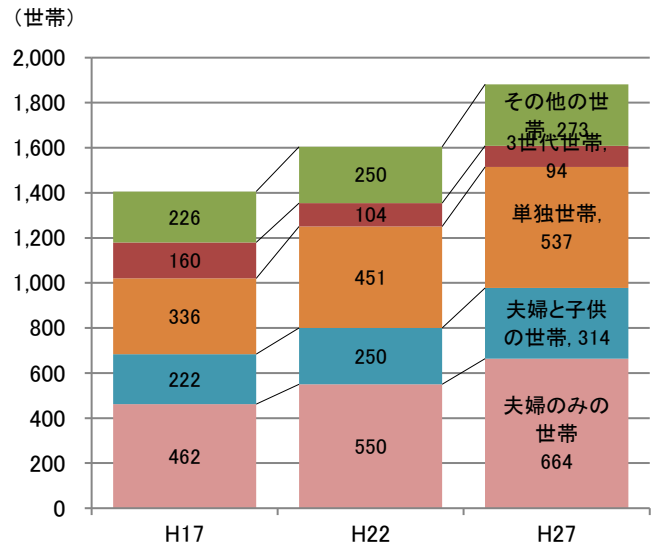


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

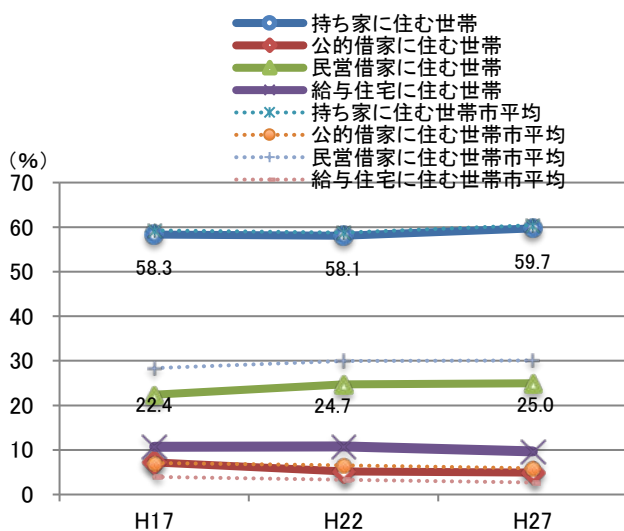


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合

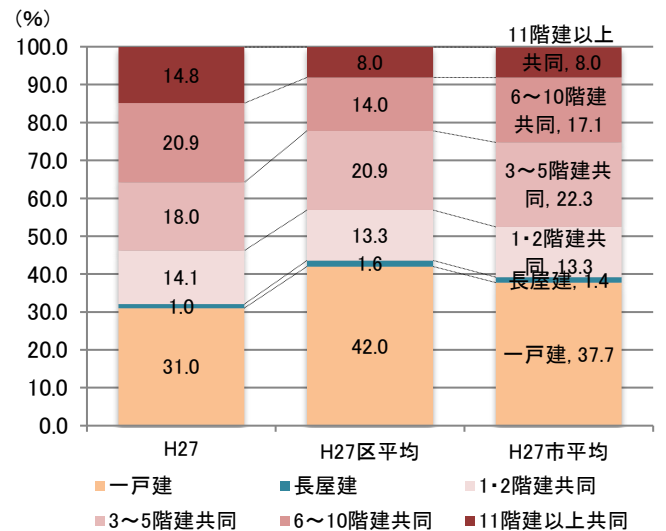


図 15 規模別世帯の動向

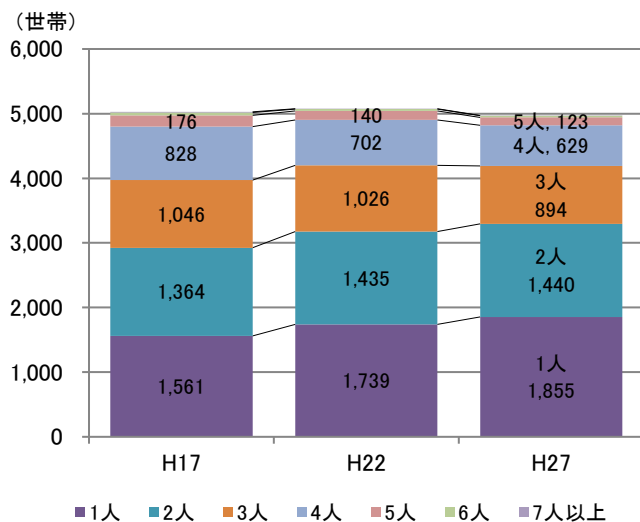
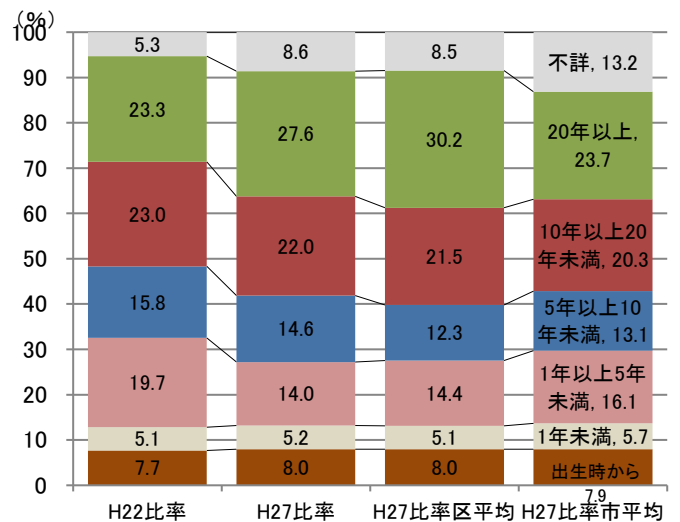


図 16 居住歴別人口の割合



6. 65歳以上の高齢者のいる世帯、要介護認定者数

表2 高齢者のいる世帯の状況 (H31)

	高齢独居世帯数 (男性高齢者)	高齢独居世帯数 (女性高齢者)	高齢者のみ世帯数 (単身世帯除く)	高齢者を含む世帯数 (高齢者と高齢者以外で構成)
世帯数(世帯)	196	541	571	1,056
対世帯総数比率(%)	4.0 (区平均 4.8)	11.1 (区平均 11.7)	11.7 (区平均 14.3)	21.7 (区平均 26.9)
対高齢者のいる世帯数比率(%)	18.6 (区平均 17.9)	51.2 (区平均 43.4)	54.1 (区平均 53.2)	100.0

*横浜市資料による。2019年3月時点。世帯数は住民基本台帳による

*高齢独居世帯は65歳以上の方1名で構成される世帯

*高齢者のみ世帯は、65歳以上の方のみで構成される2名以上の世帯

*高齢者を含む世帯は、65歳以上の方と、65歳未満の方で構成される2名以上の世帯

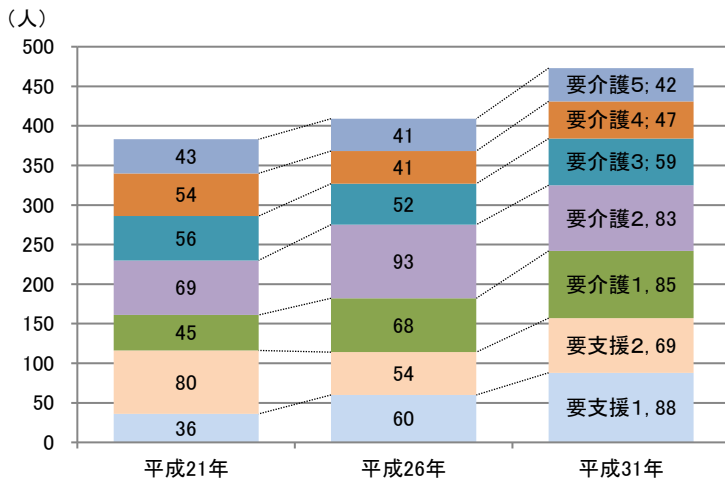
表3 要介護認定者数 (H31)

	計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
要介護認定者数(人)	473	88	69	85	83	59	47	42
人口比(%)	4.73	0.88	0.69	0.85	0.83	0.59	0.47	0.42
人口比区平均(%)	4.70	0.73	0.64	0.74	1.00	0.61	0.58	0.40
要介護認定者総数比(%)	100.00	18.60	14.59	17.97	17.55	12.47	9.94	8.88
区平均(%)	100.00	15.46	13.69	15.82	21.31	12.93	12.34	8.45

*要介護認定者数は、金沢区資料による。平成31年3月末時点

*地区別人口は、「町丁別の人口(住民基本台帳による)」により集計。平成31年3月末時点

図17 要介護認定者数の動向



*各年、要介護度別認定者数は金沢区資料による。

7. 地区の特徴と動向

金沢中部地区は京急線沿線の地区です。地区の中央に金沢文庫駅があります。

6階以上の共同住宅が多く地区内36%の世帯が住んでいます。戸建て住宅に住む世帯は約31%です。(図14参照)

持家に住んでいる世帯が約60%を占めています。民間の借家に住む世帯は約25%です。区の平均に比べて持家の比率が低く、民間の借家が多くなっています。

(図13参照)

居住期間が長い人が多く、平成27年時点で、居住期間が「20年以上」(約28%)が最も多くなっています。

「1年以上5年未満」(約14%)、「1年未満」(約5%)はほぼ区の平均です。(図16参照)

6歳未満の子どもがいる世帯は、減少が続いています。

6歳未満の子どもがいる世帯は平成27年で約370世帯で、世帯総数(約4,970世帯)の約7%を占めています(区平均は約8%)。このうち約91%が核家族です。(図11参照)

65歳以上の高齢者がいる世帯の増加が続いています。特に高齢者の単独世帯、高齢者の夫婦のみの世帯の増加が目立ちます。

平成27年で高齢者のいる世帯数は約1,880世帯で、世帯総数の約38%です(区平均は約32%)。このうち、高齢者の夫婦のみの世帯は約35%、高齢者の単独世帯は約29%です。(図12参照)

平成29年時点の高齢者のいる世帯の比率は約41%で、区の平均(約43%)を下回っています。(表2参照)

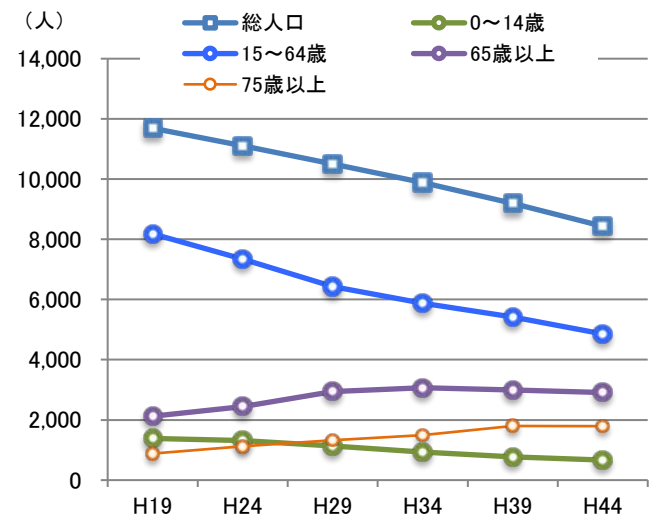
また、要介護認定者の人口比率は約4.2%で、区の平均(約4.7%)を下回っています。(表3参照)

現在は、20歳代前半に転入増加傾向がみられるものの、30～44歳が転出し減少する傾向があるため、結果的に緩やかな人口減少が続いています。(図7参照)

現在の年齢5歳別の人口の変化の傾向が続くと、30～44歳の減少がつづくことにより、今後も緩やかな人口減少が続きます。

現在の60歳代に比べて45～59歳の人口が少なく、今後高齢者になる年齢層の人口が少なくなるため、65歳以上の人口の増加は緩やかになります。(図6参照)

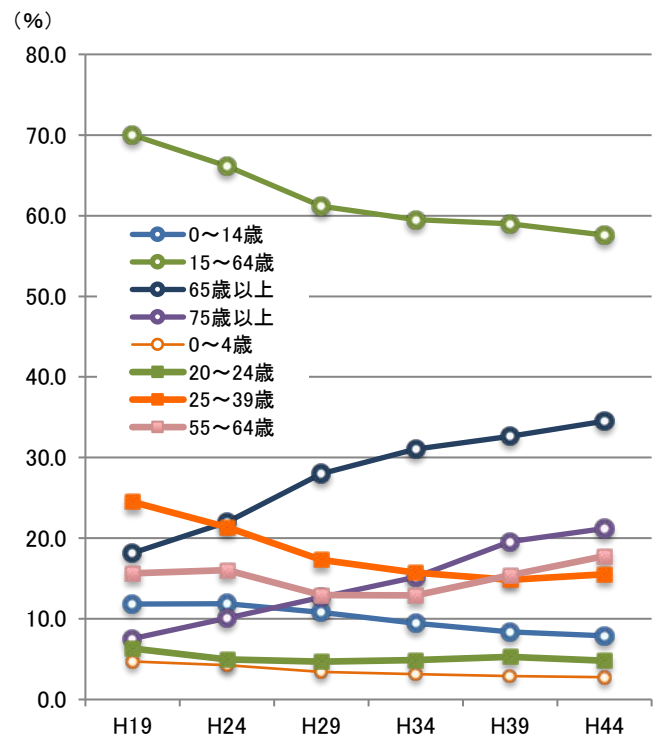
図18 人口の動向と推計



*平成24～29年の年齢5歳別人口の変化の傾向が続くものとして推計した値です。

*平成34年以降が推計値です。

図19 人口の動向と推計 年齢別比率



現在の75～79歳の人口に比べて今後75歳以上になる60～74歳の人口が多いため、75歳以上の高齢者は増加が続くと考えられます。(図6, 18, 19参照)